

ヒアリング項目	平成 29 年度 上半期調査	平成 29 年度 下半期調査
三重県内の景気動向	<p>《A 行》 以前中南勢地域は厳しく、横ばいで推移していると捉えている。</p> <p>《B 行》 一部では、将来的な設備投資を前向きに検討する企業もあるが、全体的には設備・事業規模は維持、投資は抑制傾向。</p>	<p>《A 行》 上半期同様横ばいで推移している。</p> <p>《B 行》 一部に弱さがみられるものの回復傾向にある。投資姿勢もやや更新や買い替え需要が中心だが上半期よりも前向きになりつつある。</p> <p>《C 行（通期）》 名古屋商圏に近い北勢は上向き、設備投資も活発。 南勢地区は、設備投資意欲も若干弱い。</p>
管内の景気動向	<p>《A 行》 前年と変化なし。建設業は燃料等の上昇によりコスト増。全体的に単価交渉やコスト削減など自助努力が必要な環境であると考えている。</p> <p>《B 行》 国内全体の景気回復傾向であるが、当管内では感じられない。 小規模事業・個人事業が多く波及効果がまだなく横ばい。</p>	<p>《A 行》 上半期同様の印象。各事業体での工夫が必要。</p> <p>《B 行》 北勢に進出し販売先を持つ企業など一部で回復傾向がみられる。</p> <p>《C 行（通期）》 Gestamp 社の進出により雇用創出、周辺取引の拡大が見込まれる。</p>
融資姿勢	<p>《A 行》 無担保ローン商品（保証人代表者のみ）を中心に積極的に展開。 既存貸出先への支援も注力。</p> <p>《B 行》 事業性評価を基に担保・保証に過度に依存しない融資へ注力。</p>	<p>《A 行》 上半期と比較すると落ち着いた印象。新規の資金ニーズや支援先があれば積極的にアプローチを行う。</p> <p>《B 行》 上半期と同様に事業性評価を基に融資判断を実行する。</p> <p>《C 行（通期）》 個人を含めた小口案件も積極的に対応する方針。 担保や保証人に依らない、事業性・成長性を評価し融資に取り組んでいる。</p>
資金需要の動向	<p>《A 行》 設備資金については前年同様低調。大規模な案件があれば理想。 運転資金については、資金ニーズが高まっており新規先・既存先ともに需要増加傾向にある。</p> <p>《B 行》 太陽光発電、福祉施設等の設備資金需要も落ち着き、新規投資案件は少ない。 運転資金についても、企業の手元資金の余剰感が強く新規の資金需要は少ない。</p>	<p>《A 行》 設備資金は変わらず低調。 運転資金については、折り返し融資を中心に需要があると考えている。 新規先についても積極的に支援意向。</p> <p>《B 行》 北勢に進出している建設関連企業など一部で新規の設備投資が見込まれており需要は回復傾向にある。 運転資金については、上半期と同様に新規需要は少ない。</p> <p>《C 行（通期）》 設備資金のニーズはあるが、先行きの不透明感から慎重な傾向にある。 個人向け住宅ローンが分譲地増加により需要拡大。 運転資金は、需要少なく各社自己資金にて対応している。</p>

ヒアリング項目	平成 29 年度 上半期調査	平成 29 年度 下半期調査
注目業界	<p>《A 行》 前年に引き続き建設・不動産が好調。注目している業界である。 また、製造業については、不振と考え動向に注視している（下請製造業）。</p> <p>《B 行》 北勢に展開・進出している建設関連企業など。 介護関連事業者については、人材難の点から注視している。</p>	<p>《A 行》 上半期同様、建設・不動産業界へ注目。IT 関連など企業誘致の展開を期待したい。</p> <p>《B 行》 アグリビジネス関連企業など。 人材確保の難化から人材派遣業の動向は注視している。</p> <p>《C 行（通期）》 特に注目している業界はない。同業界の中で優劣の格差が拡大しているように感じている。 コンビニ業界は競争激化がみられる。</p>
創業等の資金需要	<p>《A 行》 前年と同様にいくつか案件はあるが、低調。</p> <p>《B 行》 件数は少ないが、一部事業多角化や新業態への進出などによる需要がみられた。 また、事業承継に関する M&A など相談が寄せられている。</p>	<p>《A 行》 上半期と同様に低調、ほぼ無いに等しい。</p> <p>《B 行》 新規事業・第2創業の計画は少なく、資金需要も少ない。 後継者不在による M&A（売り情報）が一部でみられる。</p> <p>《C 行（通期）》 既存法人のオーナーが新規事業を立ち上げる相談が増えている。 また、高齢オーナーを中心に事業承継についての相談に積極的に応じている。</p>
金融機関の統合や環境変化に伴う融資姿勢の変化	<p>《A 行》 地域に根差して支援を行う、環境変化による姿勢変化はない。</p> <p>《B 行》 当地においては、金融機関の統合後も支店の重複などはなく競争環境に変化はなく、融資姿勢も変化がないと思われる。</p>	<p>《A 行》 上半期同様、姿勢に変化はない。</p> <p>《B 行》 上半期同様、融資姿勢に変化はないと考える。</p> <p>《C 行（通期）》 県内では統廃合については目立った動きなし。 政府系金融機関との金利差が大きく、競争環境は厳しい。</p>
商工会への要望	<p>《A 行》 情報交換、相互での支援案件の共有など協力したい。</p> <p>《B 行》 商工会支援先については、連携して支援に取り組みたい。 小規模事業資金等の斡旋など積極的に取り組んでいく。</p>	<p>《A 行》 情報交換、相互での支援案件の共有など協力したい。</p> <p>《B 行》 上半期同様、連携強化・情報交換を積極的に行い、地元企業との関係構築に協力願いたい。</p> <p>《C 行（通期）》 小規模事業資金を中心に支援を積極化していきたい。 また、融資以外のビジネスマッチング等の側面支援に注力しているため事業者の紹介など幅広い支援を提供できればと考えている。</p>